フォーミュラリー運用規定（経口ペニシリン系・セファロスポリン系抗菌薬）

本院における経口ペニシリン系・セファロスポリン系抗菌薬（単剤）の処方においては、原則として以下の基準に従い薬剤を推奨する。

病院推奨薬	変更提案対象薬
【連鎖球菌(<i>Streptococcus</i>)属、腸球菌(<i>Enterococcus</i>)属を想定する場合】 <u>アモキシシリン水和物</u> アモキシシリンカプセル 250mg* サワシリン細粒 10% 【ブドウ球菌(<i>Staphylococcus</i>)属を想定する場合】 <u>セファレキシン</u> ケフレックスカプセル 250mg ケフレックスシロップ用細粒 200 【グラム陰性桿菌(<i>E. coli</i>、<i>Klebsiella</i> 属、<i>Proteus</i> 属、等)を想定する場合】 <u>セファクロル</u> セファクロルカプセル 250mg* セファクロル細粒小児用 10%*	<u>セフカペンピボキシル塩酸塩水和物</u> セフカペンピボキシル塩酸塩小児用細粒 10%* <u>セフジトレンピボキシル</u> セフジトレンピボキシル錠 100mg* <u>セフジニル</u> セフジニル細粒小児用 10%* セフゾンカプセル 100mg

*成分名で記載されている薬剤は後発品

抗菌薬選択に関する相談は抗菌薬適正使用支援チーム AST（PHS：6961）へ

★代表的な感染症に対して想定される微生物と推奨される抗菌薬

感染症	想定される微生物	推奨される抗菌薬
感冒	ウイルス	抗菌薬の投与は原則不要
急性鼻副鼻腔炎	ウイルス	抗菌薬の投与は原則不要
急性咽頭炎	ウイルス	抗菌薬の投与は原則不要
	A群連鎖球菌 (GAS)	アモキシシリン
急性気管支炎	ウイルス	抗菌薬の投与は原則不要
	マイコプラズマおよび百日咳	マクロライド
皮膚軟部組織感染	黄色ブドウ球菌、連鎖球菌	セファレキシン
尿路感染	<i>E. coli</i> 、 <i>Klebsiella</i> 属、 <i>Proteus</i> 属	セファクロル
	連鎖球菌	アモキシシリン

★本フォーミュラリー策定の目的

抗菌薬の適正使用は薬剤耐性対策として極めて重要である。なかでも経口抗菌薬は、我が国の抗菌薬使用量全体の90%を占めており、セファロスポリン系、マクロライド系、キノロン系の使用量が多いことが問題視されている。

特に第3世代セファロスポリン系抗菌薬の消化管吸収率は16-35%と低く、治療効果が不安定になりうるだけでなく、対象となる菌のスペクトルが広いため、その汎用が薬剤耐性菌の増加につながるなどの懸念がある。さらに、第3世代セファロスポリン系薬は、ペニシリン系、第1および第2世代セファロスポリン系抗菌薬と比較し薬価が高いものが多く、医療経済的にも削減が必要である。

このような背景から、本フォーミュラリーでは、第3世代セファロスポリン系抗菌薬に焦点を当て、その適正使用を促すことを目的としている。

★各薬剤の消化管吸収率

一般名	薬効分類	消化管吸収率(%)
アモキシシリン水和物	ペニシリン系	80
セファレキシン	第1世代セファロスポリン系	90
セファクロル	第2世代セファロスポリン系	93
セフカペンピボキシル塩酸塩水和物	第3世代セファロスポリン系	35
セフジトレンピボキシル		16
セフジニル		25

参考：インタビューフォーム、サンフォード感染症治療ガイド2021(第51版)

- ・アモキシシリンおよび第1・第2世代セファロスポリン系抗菌薬は消化管吸収率が高い一方、第3世代セファロスポリン系抗菌薬は16~35%と低い。

★想定原因菌別の推奨薬

グラム陽性球菌		グラム陰性桿菌
連鎖球菌(<i>Streptococcus</i>)属 腸球菌(<i>Enterococcus</i>)属	ブドウ球菌(<i>Staphylococcus</i>)属	(<i>E. coli</i> 、 <i>Klebsiella</i> 属、 <i>Proteus</i> 属、等)
アモキシシリン水和物	セファレキシン	セファクロル

- ・消化管吸収率が高く安定した効果が期待でき、スペクトラムの点からも推奨される経口抗菌薬として、連鎖球菌属および腸球菌属にはアモキシシリン水和物（ペニシリン系抗菌薬）、ブドウ球菌属にはセファレキシン（第1世代セファロスポリン系抗菌薬）、グラム陰性桿菌にはセファクロル（第2世代セファロスポリン系抗菌薬）が挙げられる。

★各製剤の一般名、薬効分類

薬品名	一般名	薬効分類
アモキシシリンカプセル 250mg	アモキシシリン水和物	ペニシリン系
サワシリン細粒 10%		
ケフレックスカプセル 250mg	セファレキシン	第1世代 セファロスポリン系
セファクロルカプセル 250mg	セファクロル	第2世代 セファロスポリン系
セファクロル細粒小児用 10%		
セフカペンピボキシル塩酸塩小児用細粒 10%	セフカペンピボキシル塩酸塩水和物	第3世代 セファロスポリン系
セフジトレンピボキシル錠 100mg	セフジトレンピボキシル	
セフジニル細粒小児用 10%	セフジニル	
セフゾンカプセル 100mg		

★各製剤の薬価と使用状況および薬剤費（2021/4/1-2022/03/31）

薬品名	薬効分類	薬価 (円)	使用状況		薬剤費 (円)
			患者数 (人)	処方量	
アモキシシリンカプセル 250mg 「トーワ」	ペニシリン系	10.1	565	9,288錠	93,809
サワシリン細粒 10%		8.8	47	1,992g	17,530
ケフレックスカプセル 250mg	第1世代セファロスポリン系	31.5	336	4,500錠	141,750
セファクロルカプセル 250mg 「サワイ」	第2世代セファロスポリン系	54.7	349	5,566錠	304,460
セファクロル細粒小児用 10% 「サワイ」		44.3	29	1,047g	46,382
セフカペンピボキシル塩酸塩錠 100mg 「トーワ」	第3世代セファロスポリン系	24.6	206	2,374錠	58,400
セフカペンピボキシル塩酸塩小児用細粒 10% 「SW」		82.5	17	231g	19,058
セフジトレンピボキシル錠 100mg 「サワイ」		37.7	22	686錠	25,862
セフジトレンピボキシル細粒小児用 10% 「トーワ」		128.5	6	44g	5,654
セフジニル細粒小児用 10% 「JG」		41	2	20g	820
セフゾンカプセル 100mg		59.7	12	351錠	20,955

・当院での経口ペニシリン系・セファロスポリン系抗菌薬の使用患者のうち、第3世代セファロスポリン系抗菌薬の使用患者が約20%を占める。（2021年調査）

《作成・改訂履歴》

- ・2022年9月1日作成
- ・2024年12月5日改訂
- ・2025年3月6日改訂